

新茶 出来栄えは



一番茶の手触りや香りなどを熱心に吟味する販売業者ら＝揖斐郡揖斐川町極楽寺、JA全農岐阜美濃茶流通センター

「美濃いび茶」 一番茶共販会

揖斐郡揖斐川町と池田町で栽培される「美濃いび茶」の今季初めての一番茶共販会が27日、揖斐川町極楽寺のJA全農岐阜美濃茶流通センターで開かれ、県内外の小売、卸売業者が新茶の出来栄えを

吟味しながら入札した。美濃いび茶は、両町の約200畝で栽培されている特産茶。今年は、今月中旬からの高い気温と適度な雨で生育は順調という。美濃いび茶共販委員長の太田恒雄さん(76)は「これから味に深みが増してくるだろう」と期待

この日は、共同工場3カ所と個人農家2人から21点(計103・6キ)の一番茶が出品された。参加した16業者20人は茶葉を手のひらに載せて色や香りなどを確認。試飲し、味もじっくりと比べた。1キ当たりの平均落札額は4083円で昨年より1191円高かった。最高価格は3万3千円(昨年4万8千円)で、揖斐川町桂のいび茶の里が落札した。

今年の出荷量は、二番茶なども含む全体で例年並みの約240トを見込んでいる。

(山田雄大)